

用語解説

注1 外国につながる子ども P1

これまで一般的に使われた「外国人」という言い方が、当てはまらないケースが増えてきました。日本国籍ではないが日本で育った人、日本国籍だが海外で生まれ育った人、国際結婚の両親から生まれた人などです。この提言では、何らかの意味で外国と強いつながりがある場合に「外国につながる?」を使用しています。「外国につながる人びと」も、同様です。

注2 国際化、多文化化 P1

以前から「日本の国際化」などと、主に欧米先進国並になることを目指して「国際化」という言葉が使われてきました。この言葉はそれ以外にも、さまざまな国々とかかわりを強めることなどの意味があります。ここでは後者の意味で使っています。また、地域社会で世界のいろいろな地域出身の人たちが暮らしている状況を「多文化化」と表現しています。

注3 オールドカマー、ニューカマー P2

かつて日本の旧植民地から日本に来た人たちやその二世、三世等を一般に「オールドカマー」と呼んでいます。「オールドタイマー」という人もいます。これらの人びとと対照的に比較的最近来た人たちを「ニューカマー」と言っています。

注4 通訳派遣 P2

葛飾区では、日本語理解が十分でない帰国児童・生徒、外国人児童・生徒の学校への早期適応を促進するため通訳派遣を平成14年度からおこなっています。派遣時間は、1人64時間以内。通訳の業務内容は、学校生活全般に関する指導、学校と保護者との通訳、基礎的な日本語指導などです。平成23年度は、56人に派遣をおこないました。

注5 日本語学級 P2

葛飾区では、小中学生を対象に通級型の日本語指導教室を3会場（高砂中学校、松上小学校、中之台小学校）で開設しています。週3回、午後2時から4時までおこなっています。

注6 学習言語 P2

外国人児童・生徒にとって、日本語は生活するためだけでなく、学習するために必要で

す。日本語の生活言語は習得に 2 年、学習言語は習得に 5~9 年かかるといわれています。日常会話ができるからといって、日本語指導が必要ないというわけではありません。

注 7 公立中学校夜間学級 P3

都内には公立中学校 8 校に夜間学級が設置されています。学齢を超過した義務教育を修了していない人ならだれでも入学できます。学費は不要（ただし、給食費、教材費、活動参加費は必要）。授業時間は、おおむね午後 5 時 30 分から 9 時頃までです。給食もあります。

葛飾区立双葉中学校夜間学級には、通常学級と日本語学級があり、現在、国籍も様々な 10 代から 70 代までの年齢の方が学んでいます。通常学級は国語、数学、理科など 9 教科を、日本語学級では日本語を中心に勉強しています。

注 8 ロールモデル P10

自分も将来あのような人になりたいと、自分の先輩などで、努力目標にできる人を指します。



ボランティアも協力した小学校での国際理解教育

資 料 編

- 第 8 期社会教育委員の会議の協議テーマについて
- 第 8 期社会教育委員名簿
- 第 8 期社会教育委員の会議協議経過
- ヒアリングした団体・見学先等の概要
- 参考データ



ボランティアによる日本語教室での書初め（新小岩学び交流館）

第8期社会教育委員の会議の協議テーマについて

協議テーマ

「国際化、グローバル化する社会を生きる子どもの育成について」

理由

国際化、グローバル化する社会は、多様な文化や価値観を持つ人々が共に生きる社会であり、将来の社会を担う子どもたちが国際社会を生きていくために必要な資質や能力を身につけていくことが大切となっている。

すでに日本の学校でも多くの外国人の子どもたちが学ぶようになり、多様な文化的な背景を持つ子どもたちと「共に学び、共に生きる」ということが重要な教育課題となっている。

そこで、国際化、グローバル化する社会を生きる子どもを育成するための具体的な方策について検討する。

第8期社会教育委員名簿 (任期 平成23年4月1日～平成25年3月31日)

氏名	現職等	選出区分	備考
山田 泉	法政大学教授	学識経験者	議長
大島 英樹	立正大学准教授	学識経験者	副議長
伊藤 みどり	葛飾区青少年委員会代表	社会教育関係者	
増田 英徳	葛飾区立小学校PTA連合会代表	社会教育関係者	
山田 裕子	東金町・東水元地区国際交流推進委員会代表	社会教育関係者	
福島 育子	日本語の会いろは(日本語教室)スタッフ	社会教育関係者	副議長
中村 豊	葛飾区立柴原小学校校長	学校教育関係者	
立澤 比呂志	葛飾区立双葉中学校校長	学校教育関係者	平成24年4月1日から
千野 英雄	葛飾区立新宿中学校校長	学校教育関係者	平成24年3月31日まで

第 8 期社会教育委員の会議協議経過

回	月 日	内 容
第 1 回全体会	平成 23 年 6 月 9 日	○社会教育委員の委嘱 ○正副議長の選出 ○協議テーマの確認 ○社会教育関係団体への補助金交付について
正副議長会	7 月 4 日	○検討スケジュール、検討事項の協議
第 2 回全体会	7 月 7 日	○具体的な検討項目の協議と確認、スケジュールについて
第 1 回全員協議会	7 月 28 日	○中青戸小レインボーボンの取組について ○東金町・東水元地区国際交流推進委員会の取組について
正副議長会	8 月 8 日	○現状把握、検討内容、スケジュールについて
第 2 回全員協議会	9 月 8 日	○小松中学校の外国につながる生徒への取組について ○ヒッポファミリークラブの取組について
正副議長会	9 月 13 日	○現状把握、検討内容、スケジュールについて
見学会	10 月 5 日	○すみだ国際学習センター及び FSC の見学
見学会	10 月 7 日	○多文化共生センター東京の見学
第 3 回全員協議会	10 月 21 日	○見学の報告 ○双葉中学校夜間学級の取組報告
正副議長会	10 月 31 日	○協議内容、スケジュールの協議
ヒアリング	12 月 2 日	○「外国につながる子どもの保護者」へのヒアリングと懇談会
第 4 回全員協議会	12 月 19 日	○「外国につながる子どもの保護者」へのヒアリングの報告 ○外国人児童・生徒のための学習支援ボランティア「なかよし」の取組について
第 5 回全員協議会	平成 24 年 2 月 7 日	○提言の構成について ○提言項目について
第 6 回全員協議会	3 月 2 日	○提言内容について
正副議長会	3 月 12 日	○提言内容の整理
第 3 回全体会	5 月 10 日	○提言の構成と内容について
第 4 回全体会	5 月 21 日	○社会教育関係団体の補助金交付について ○提言内容について
第 7 回全員協議会	6 月 21 日	○提言内容について
第 5 回全体会	7 月 12 日	○提言内容について
第 8 回全員協議会	7 月 27 日	○提言内容について
第 9 回全員協議会	9 月 21 日	○提言内容について
第 6 回全体会	10 月 12 日	○中間報告のまとめ
第 10 回全員協議会	11 月 29 日	○最終提言に向け協議
第 7 回全体会	平成 25 年 1 月 31 日	○提言の確認、提出

ヒアリングした団体・見学先等の概要

以下に、第 8 期社会教育委員の会議における協議に際し参考にした日本語教室や関連の取組等について、概要を示した。

○ 墨田区における帰国・外国人等児童・生徒への対応事業

1 担当教員の配置

- ①日本語通級指導教室
平成 14 年度から小学校 1 校に開設（正規教員 2 名配置）
- ②日本語指導加配教員配置（都教委による単年度配置）
平成 24 年度は、小学校 2 校、中学校 2 校に配置
- ③墨田区帰国・外国人等児童・生徒学習支援教室「すみだ国際学習センター」の設置
平成 19 年から墨田区帰国・外国人等児童・生徒学習支援拠点校（錦糸小学校）に開設

2 通訳派遣

- ①日本語支援員派遣（指導室）
原則 96 時間を上限とし、児童・生徒に対し派遣
*現状は、梅若小への通級が難しい「低学年児童」への派遣が大半をしめている。
- ②センター通訳派遣（国際センター）
保護者への対応のための派遣及び文書の翻訳業務

3 教員研修

日本語指導研修会（外国人児童・生徒研修会）

平成 24 年度より、全小中学校の校務分掌に外国人児童・生徒担当を位置付け、担当者を対象に東京学芸大学国際教育センターと連携を図り、年 5 回（1 回：半日）実施

- ・講話・演習（J S L 研修）
- ・指導主事による現状、区のシステムの周知
- ・各指導員及び教員によるすみだ国際学習センター・日本語通級教室の現状について説明

4 帰国・外国人等児童・生徒の就学の流れの確立（平成 22 年度～）

「墨田区帰国・外国人等児童・生徒の学習支援の流れ（平成 23 年 7 月）」… P 19 参照

○墨田区帰国・外国人等児童・生徒学習支援教室「すみだ国際学習センター」

1 概要

外国から編入し、日本語や学校の勉強が分からなくて困っている児童・生徒や、今まで暮らしていた国と日本の生活習慣の違いから、学校の生活に不安をもっている児童・生徒のために、学習支援をするための教室として開設された。

この教室では、日本に来たばかりの児童・生徒に対して集中的に日本語指導を行い、学校生活の適応支援をしている。開設以来、行政（指導室、学務課）、学校（中学校、設置校）、地域（ボランティア団体：F S C）と連携し、取り組んでいることが大きな特色である。

開 設：平成 19 年 9 月～

場 所：錦糸小学校（墨田区帰国・外国人等児童・生徒学習支援拠点校）内

対 象：区内中学校及び拠点校に在籍する帰国・外国人等児童・生徒

時間帯：午前の部 9 時～11 時 50 分（日本語の基礎・学習言語の導入）

午後の部 13 時 40 分～16 時 50 分（日本語強化・教科学習の補習）

拠点校は、時間割に応じる。

指導者：日本語教育の専門家、外国語が話せる指導員、元小中学校教員

指導員…週 5 日勤務 3 名、非常勤教員 2 名（月 16 日勤務）

支援員…週 2～3 日勤務 3 名程度（生徒数に応じ配置）

通 訳：中国語、タガログ語（英語）、韓国語、タイ語

主業務：来日直後の面談表を基にした面談及び聞き取り

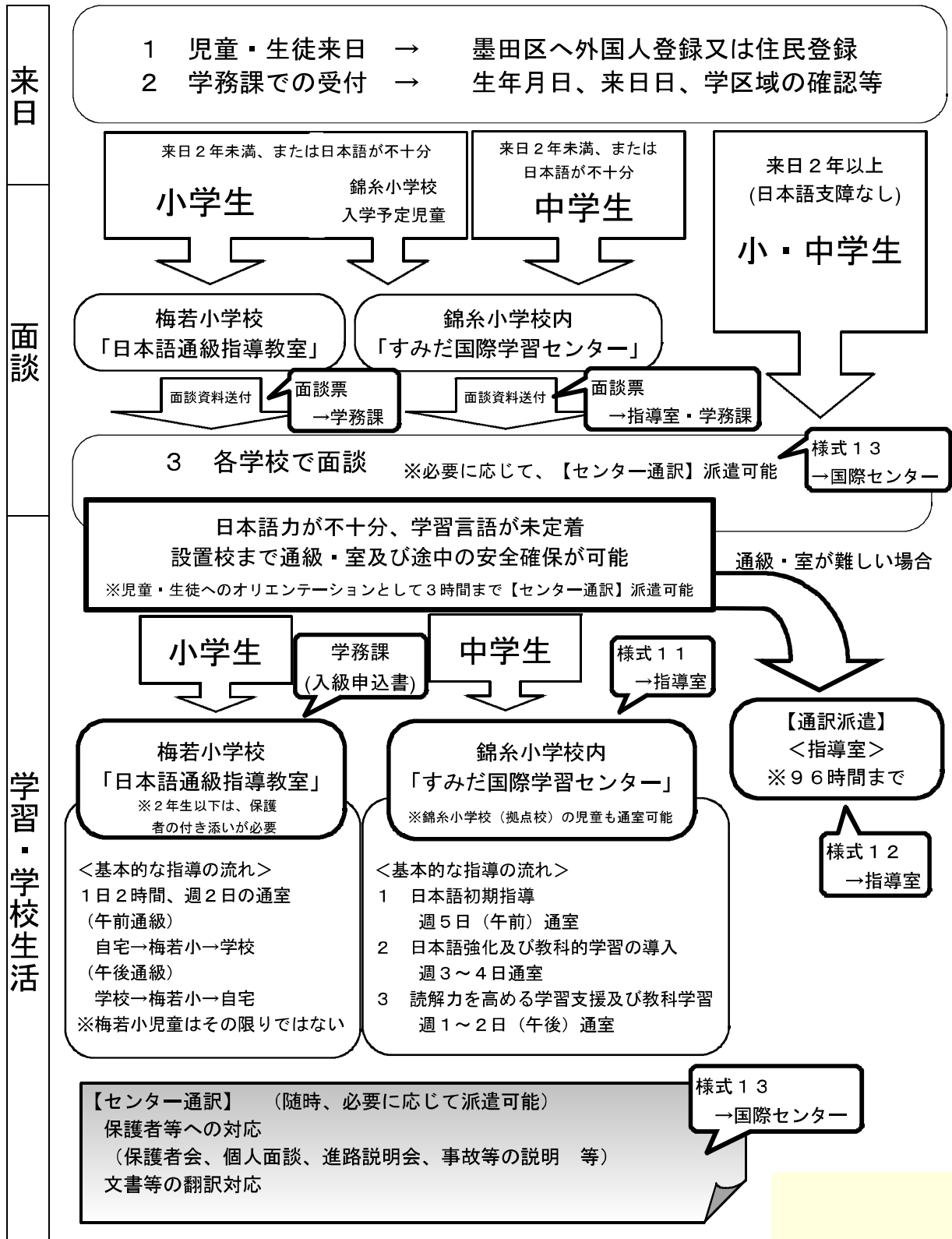
日本語初期指導、学習支援、学校の要請による通訳派遣、文書の翻訳等

2 学習について

学務課から連絡を受け、対象児童・生徒の面談を来日後すぐにすみだ国際学習センター（以下、「センター」という）で行う。在籍校決定後、保護者、児童・生徒、学校の要望によりセンターでの日本語学習が始まる。センターの学習計画に基づき、日本語初期指導や学校生活に必要な日本語、学校での授業に必要な学習用語、学習言語の学習をしていく。センターへの通室は、午前中心から午後へと徐々に移行していくようにし、児童・生徒の日本の学校への適応、異文化への理解がスムーズに進むように配慮している。

在籍校に対しては、主に連絡帳を活用し、通室生徒の学習状況等について共通理解を図っている。また、通室回数については、日本語習得状況だけでなく、学校生活への適応状況なども考慮したうえで学校と調整しながら決定している。

その他、センター通訳として、編入時の手続き・教育相談・三者面談等の通訳や学校からの通知文の翻訳等を行っている。



○ 外国人生徒学習の会（F S C:Foreign Students Study Club）

○概要

すみだ国際学習センターと連携し、外国人生徒の学習支援を行っているボランティアグループ。2004年に「外国人生徒の学習支援」講習会を開き、区民に支援を呼びかけボランティアグループとして発足した。

すみだ国際学習センターで、中学生を対象に日本語指導や学習支援などをおこなっている。

活動日時	水曜日：16時～18時 土曜日：10時30分～12時30分
活動場所	すみだ国際学習センター内の学習室を使用
会 員	参加自由、資格や活動経験があると望ましい。会員数約30人
活動報酬	無料（ただし、2006年から交通費支給）
活動内容	日本語指導、学習支援（国数英理社、作文）、進路・生活相談
対 象	主に区内中学生 現在登録者40人以上、常時15～6人
学習方法	なるべくマンツーマン指導 2科目以上持参し、1時間交代。希望により続行する。
学習教材	「ひろこさんの日本語」「学ぼう日本語」その他ワークブック等 教科書、参考書、問題集、辞書、電子辞書など
活動経費	会員などの協賛金、文化庁や企業の助成金



外国人生徒学習の会でのボランティアによる学習支援
（すみだ国際学習センター）

○ NPO法人 多文化共生センター東京

1 経緯

多文化共生センター東京は、「多文化共生センター」の東京事務所として2001年に開設された。外国籍児童生徒の教育状況に関する調査や通訳、相談、中学生の高校受験の支援を行っていたが、母国で中学を卒業した子どもが高校に入ることが困難な状況があることから、「たぶんかフリースクール」を2005年に始めた。

その後、荒川区と連携し、2008年に「荒川区ハートフル日本語適応指導事業（補充学習指導）」、2010年に「荒川区ハートフル日本語初期指導（通室学習指導）」を開始。

2010年に、「虹の架け橋事業（外国人の不就学児のために日本語教育を行う文部科学省による外国人児童生徒就学促進事業）」を国際移住機関より受託し実施。

2 たぶんかフリースクールの概要

①設立年月日 2005年5月

②目的 日本の中学校に入れず、学ぶ場のない子どもたち（学齢超過児と中学校卒業者）や来日期間が浅く日本語の初期指導が必要な子どもたち、荒川区の小学校高学年及び中学生に対して、毎日通えて日本語と強化を勉強できるまなびの場と居場所を提供する。最終的には高校進学につなげることを目的とし、外国にルーツを持つ子どもたちが教育を受ける権利を享受できる環境の実現を目指す。

③事業内容

○午前クラス（週4回、9:00～12:00）

対象 中学1～3年生（荒川区ハートフル日本語初期指導対象者）

内容 日本語初期指導（通室学習指導）

○午後クラス（週4回、13:00～16:10）

対象 学齢超過生徒、母国で中学を卒業した生徒

内容 日本語及び教科指導（国語、数学、英語、社会、理科）、居場所の提供

○夜クラス（週3～4回、18:00～20:10）

対象 小学校5年生～中学校3年生（含む荒川区「ハートフル日本語適応指導事業（補充学習指導）」対象者）、他区の中学生

内容 日本語及び教科指導（国語、数学、英語）、受験サポート

○通信制代々木高校多文化共生コース（週4回、9:00～16:20）

対象 外国にルーツのある生徒（高校中退者、母国で高校1・2年生修了者）

内容 通信制高校での学習サポート（個別対応）

○虹の架け橋事業

対象 義務教育不登校者・不就学児童・生徒

内容 日本語及び教科（国語、英語、数学）

④その他

- ・現役中学生は、高校進学で指定校推薦が可能だが、学齢超過の子どもたちは、一般入試しかない。
- ・初期に集中的に日本語指導をおこなうのが効果的であり、コースを組み合わせることにより5か月は連続して学習できる。
- ・通室は、半日方式がよい。

○ 言語交流研究所ヒッポファミリークラブ

1 概要

「国や人種の違いを超えて、どんなことばを話す人とも友達になれたら……」（提唱者：榊原 陽）との思いから1981年に発足した活動。『ことばと人間』をテーマに、「多言語の自然習得」と、「多国間交流」の実践を通して、どのように人間がことばを習得していくのかという、言語と人間の科学的探究を進め、国際理解と人類の共生に寄与することを目的としている。

2 活動内容の様子

<実践部門：ヒッポファミリークラブ>

……7カ国語（スペイン語、韓国語、英語、日本語、ドイツ語、中国語、フランス語）をベースに、複数の言語を同時に、自然の道筋で習得していく活動をしている。

日常の多言語活動（ファミリー活動）

言語交流研究所のフェローによって運営される活動場所（ファミリー）に、子どもを連れた家族を中心に、幅広い年代のメンバーが集う。メンバーは世界の歌や、ヒッポのオリジナルのストーリーCDを日常的に楽しみながら、活動場所に参加する。

ことばを外国語として勉強するのではなく、どのことばも「同じ人間のことば」として捉え、多言語の自然習得体験や、ホームステイ交流での体験などを仲間と共有する。その中で、どんなことばにも心を開き、同じ人間として向き合い、コミュニケーションできる人材を育てる。

国際交流活動（トランスナショナルホームステイ）

国や文化、人種の違いを超えて、仲良くなることを目的としたホームステイ交流をおこなっている。現在約 30 の国や地域に協力団体があり、青少年交流、高校留学プログラム（約 1 年間）、家族交流などのプログラムを通じ、年間約 1,500 名のメンバーが海外で相互交流をおこなっている。

葛飾区においては、2012 年の青少年交流に、韓国、マレーシア、ロシア、アメリカ、メキシコ、台湾に 6 名の小・中学生が参加。高校留学プログラムでは、これまでにアメリカ、フランス、スペイン、ドイツに留学した。外国からのホームステイ受け入れプログラムもおこなっている。

＜地域社会の国際化、グローバル化への貢献として＞

……地域の多文化共生社会の一助として、また、多言語活動について周知する機会として「7カ国語で話そう」をテーマに、講演会、講座などを企画、開催している。

小中学校での国際理解の授業への協力もおこなっている。外国につながる子どもが多く在籍するクラスでは、「皆の前で母国語を話すことが無かった子が、堂々と母国語を口にすることができるようになった」「外国語に触れることを通して、偏見なく仲良くなることを体で分かり、楽しく友達づくり、クラスづくりを行うことができた」との感想が担任の先生から寄せられている。

児童向けには、地域の児童館や子どもの広場などで、赤ちゃん連れのお母さんを対象とした、多言語と子育てを楽しむ会を開催。参加者から「赤ちゃんのことばの発達を楽しみたいと思った」「世界が広がった」などの感想が、多く寄せられている。



小学校での高校生による留学体験の報告



外国の留学生と児童との交流（小学校）

○ 東金町・東水元地区国際交流推進委員会

1 経緯と目的

『東金町・東水元地区国際交流推進委員会』は、1999年に発足し、東金町中学校生徒のオーストラリア海外派遣を実施した。

翌年からは、アメリカの短期留学生ホームステイ受け入れも始まり、オーストラリアとアメリカの2本立てで国際交流に取り組む。公立中学校で、学校長が代わった時に活動が継続できるかどうか心配であったが、その後、4人代わったが東金町中学校の特色のある教育活動として、受け継がれている。国際交流推進委員会の構成は、地域の有志、PTA-OB、PTA、教員、HF経験者（卒業生）である。

国際交流推進委員会の願いは、地域子どもたちを国際人として育成し、同時に地域によき一員としての自覚を持たせること。かつ日本人としての誇りを持てるように日本の文化も知り、外国人と交流を持てるグローバルな人に育つことである

さらに、オーストラリアやアメリカのホストファミリーなどを経験した生徒たちが、ゆくゆくはこの推進委員会を担って地域に貢献できるような大人に成長することを期待し、東金町中学校の学校地域応援団としての活動をしている。

アメリカ留学生受け入れは、東金町中学校の生徒全員が関わることができることから、毎年来ることを希望している。通常ローシアン協会から話が来る。学校行事や試験などに支障はないか？あるいは、高校生の留学生もいるので年齢的に大丈夫か？など学校と検討し受け入れが決定するとホストファミリーの募集をかける。その時は現PTAの協力を得てホストファミリーを探し、滞在中のフォローをあらゆる場面でおこなっている。

2 国際交流推進委員会の活動内容

- ①オーストラリア海外派遣（現在休止）
- ②アメリカ留学生受入時は、ホストファミリーの募集と決定。活動内容を学校と相談
- ③留学生が来ない時は、それに代わる活動内容を検討

*日本文化体験講座などの講師を探す協力。

*国内単発交流校を探すこと。

- ④活動時は、ビデオや写真など記録を取る。
- ⑤毎年、冊子『夢のかけはし』を発行



朝鮮学校との交流

3 14年間の記録

- ①オーストラリア派遣生徒（延べ55人+引率10人）

- ②アメリカ・ホストファミリー（延べ70人+引率12人）
- ③単発交流校
 - 座間アメリカン・ハイスクール（18人+引率4人）
 - 墨田区朝鮮第五学校（20人+引率3人）



アメリカン・ハイスクールとの交流会「キズナプロジェクト」
（東金町中学校）

○ 中青戸小学校レインボーリボン

1 概要

中青戸小学校PTAの有志によるサークル的なグループ。

2007年にPTA広報部が取り組んだ「外国人ママの本音座談会」を契機に、日本語を母語としない保護者と助け合い、ともにPTA活動を発展させていこうと活動を始めた。

現在は、多文化でつながっていこうと、外国だけでなく、手話などの障がい者文化、引っ越してきたばかりの人など、多様性を豊かさとしてコミュニケーションを深める活動をおこなっている。

PTAからは独立した活動だが、連携をしながら活動している。

2 活動内容

- ・日本人保護者への外国人に対する理解を求める啓発活動
- ・多言語のプリントの作成・配布
- ・外国の人たちや外国人ママたちとの交流、つながりをつくる活動
- ・入学式後のPTAの説明の際に、レインボーリボンの活動や外国人ママの状況について紹介している。

3 活動で感じたこと

- ・活動は楽しく、よい人間関係が出来て、社会的な意義があると感じられ、PTA活動として、出来たら素晴らしいと考えている。
- ・文化ギャップが偏見に繋がってしまう事がある。
- ・保護者会に出て来られないお母さんとは、いまだに話しが出来ず、そうした家庭の子どもが一番心配
- ・助けてあげようという、「上から目線」ではうまくいかない。
- ・日本社会に溶け込めていないとか、差別されて排除されている状態にいる家庭の中で育っている子どもへどのような支援が必要なのか、そこが心配
- ・PTAの活性化の起爆剤に外国人ママがパワーになると思う。
- ・自分のルーツは外国にあるのだ、としっかり自分の存在意義が確認出来ている子どもは問題がない。
- ・日本語指導員派遣事業だけでは外国人保護者とのコミュニケーションが困難
- ・日本語が、まったく分からない状態で学校は受け入れざるを得なく、親御さんも日本の学校制度とか習慣を全く予備知識がないまま入ってくる。
- ・ある程度入学前に保護者を集めて、日本語の基本的な事や習慣を伝えた上で、入学するようにすればよい。
- ・レインボーサークルのような自主的な活動と学校が上手くタイアップ出来ればよい。

○ 地域日本語教室・ボランティア日本語教室について

1. 経緯

1970年代以降、日本経済の国際化に伴う外国人労働者受け入れや国際結婚などによってニューカマーが増加したが、その多くは経済的・時間的理由などから日本語学習の機会がほとんどなく、生活に困難が伴ったといわれている。そこで地域社会では「ボランティア」による日本語学習・生活支援活動が行われるようになった。葛飾区でも二十数年前からボランティアによる日本語教室が開催され、区内では「日本語の会いろは」をはじめ現在8つの日本語教室（下記参照）が活動している。

2. 活動内容

活動は区の学び交流館等を中心に各教室とも主として週1回約2時間（水・木・金・土）である。毎金曜日は一日（午前・午後・夜間）を通して教室が開催されている。短期滞在者（観光など）、ビジネスマンや駐在家族、中国帰国者とその家族や親族、留学生、ワーキングホリデイビザ取得者、「日本人の配偶者等」など、多様な背景を持つ外

国人(主として成人)が互いの文化を尊重しつつ共に交流しながら日本語を学んでいる。そのため、学習者のニーズや学習スタイル、参加者数、各教室の特色も様々で、諸行事活動(子どもたちの参加も有り)も含め、より生活に密着した場所となっている。学習者はいつでもだれでも参加自由で、ボランティアは資格・性別・年齢等是不問であるが、区主催等の「日本語ボランティア養成講座」の修了者も多い。

3. 日本語教室の役割と意義

社会の変化とともに、「学習者」と「ボランティア」が双方向的に学び合う「共育」関係(野山, 2002)を構築していくことが提唱され、互いに交流し理解を深めつつ学ぶ場としての機能も重要視されている(山田, 2001)。また、杉澤(2005)は「地域の日本語教室は、日本の多文化共生社会の土台を構築し得る市民活動」であると主張している。各学習者が地域社会とつながり、社会参加していくきっかけを育む場ともなり、ボランティアもまた学びつつ多くの気づきを与えられる場である。

※葛飾区のボランティア日本語教室(2012年現在)

アジアと交流する市民の会・日本語の会「いろは」(新小岩午前・午後・亀有各教室)・木曜日の日本語教室・日本語ボラボラ・金町日本語教室・日本語で遊ぼう会
 ※野山広(2002)「地域社会におけるさまざまな日本語支援活動の展開」

『日本語学 2002年5月号』明治書院

※山田泉(2001)「社会を変えるための「学び」ー学ぶのはだれかー」

『東海日本語ネットワーク活動報告書第6号』東海日本語ネットワーク、pp. 7-211

※杉澤経子他(2005)「むさしの参加型学習実践研究会」『やってみよう「参加型学習」! 日本語教室のための4つの手法?ー理念と実践?ー』スリーエーネットワーク、pp. 9



ボランティアによる日本語教室での交流イベント(盆踊りと料理会)(新小岩学び交流館)

○ 外国人児童・生徒のための学習支援ボランティアグループ なかよし

1 概要

平成 22 年度「外国人児童のための学習支援ボランティア講座」の参加者で発足したボランティアグループ。

その後、講座参加者以外の会員も増え、現在の会員は 30 人弱。

会の目的は、日本語を母語としない児童・生徒の日本語学習や教科学習等の支援を通して、子どもの健やかな成長を図ること。

2 主な活動

(1) 小中学校でのボランティア活動

学校からの依頼を受けて、当該児童・生徒への日本語学習等を支援

(2) 日本語指導学級でのボランティア活動

高砂中学校会場の日本語指導学級で日本語指導

(3) 会員の研修活動

定例会での情報交換や講師を招いての研修

(4) なかよし交流会の開催

日本語を母語としない子どもを対象とした定期的な交流会を毎月、葛飾教育の日の午後で開催。内容は、同じ国出身者による母語での交流、様々な国出身者によるゲームなどを通じた交流、ボランティアによる学習指導、進路相談など



外国人児童のための学習支援ボランティア講座

3 ボランティア活動の様子

現在、高砂中学校会場の日本語指導学級で週 3 回（月・水・金）日本語指導のボランティア活動をおこなっている。日本語指導テキストや子どもたちが持参する学校の宿題をもとに、日本語の読み書きや教科学習の補習を支援している。

このほか、夏季休業中に外国人児童・生徒を対象に自主学習会を行い、宿題などの学習支援をおこなった。



ボランティアによる学習支援

参考データ

1 葛飾区立小中学校における外国籍児童・生徒数

平成 22 年	171
平成 23 年	156
平成 24 年	137

(人)

2 日本語の理解が十分でない帰国・外国人児童・生徒への通訳派遣件数(葛飾区)

平成 22 年度	93
平成 23 年度	56

(人)

3 葛飾区内の学校数、学級数、生徒数

(平成 23 年 5 月 1 日現在)

	中学校(公立)	中学校(私立)	中学校合計	小学校(公立)
校数	24	3	27	49
学級数	285	18	303	687
生徒数	9,110	515	9,625	20,578

(人)

4 日本語学級通級者数(葛飾区立小・中学生)

平成 22 年度	51
平成 23 年度	43

(人)

5 外国人子女等日本語指導対応加配教員の配置(葛飾区)

平成 23 年	小松南小学校 新小岩中学校 小松中学校
平成 24 年	小松南小学校 小松中学校

6 外国人登録国籍別人員 (第 55 回葛飾区統計書) (平成 23 年 4 月 1 日現在)

中国	7,023	マレーシア	32
朝鮮・韓国	4,112	オーストラリア	27
フィリピン	1,432	ペルー	27
バングラディシュ	255	ガーナ	20
タイ	251	ウガンダ	20
ネパール	159	シンガポール	15
ベトナム	128	ドイツ	14
米国	124	スウェーデン	12
ミャンマー	94	ルーマニア	11
モンゴル	79	コロンビア	9
インド	78	カンボジア	8
ブラジル	69	オランダ	8
英国	67	イタリア	8
インドネシア	66	メキシコ	7
パキスタン	64	スペイン	7
スリランカ	57	トルコ	7
エチオピア	51	チリ	6
カナダ	37	コンゴ民主共和国	6
ナイジェリア	36	チェコ	6
イラン	35	スーダン	6
ロシア	35	無国籍	1
フランス	32	その他	94
		総数	14,635

(人)

*法律の改正により、平成 24 年度 7 月 9 日から「外国人登録制度」がなくなり、日本人と同様に住民基本台帳法が適用されることになりました。したがって、それ以降は「外国人住民」と表記します。

7 主要国籍別人数表(葛飾区) (第55回葛飾区統計書) (各年度4月1日現在)

	韓国・朝鮮	中国	米国	フィリピン	英国
平成19年	4,335	5,075	136	1,506	73
平成20年	4,398	5,766	131	1,558	75
平成21年	4,404	6,398	140	1,573	82
平成22年	4,275	6,734	130	1,492	71
平成23年	4,112	7,023	124	1,432	67
	ブラジル	タイ	フランス	オーストラリア	カナダ
平成19年	92	213	34	36	37
平成20年	80	235	42	28	40
平成21年	91	237	32	35	41
平成22年	68	258	35	37	30
平成23年	69	251	32	27	37
	ミャンマー	ペルー	イラン	その他	合計
平成19年	68	25	36	1,114	12,780
平成20年	74	25	34	1,125	13,611
平成21年	80	25	33	1,240	14,411
平成22年	84	26	36	1,242	14,518
平成23年	94	27	35	1,305	14,635

(人)

8 特別区の国籍別外国人登録者数(特別区の統計 平成23年版)(平成23年1月1日現在)

韓国・朝鮮	中国	米国	フィリピン	英国	ドイツ
97,476	139,332	15,181	23,184	5,961	2,466
フランス	カナダ	タイ	ベトナム	その他	合計
5,246	2,843	5,918	2,790	52,698	353,219

(人)

国際化、グローバル化する社会を生きる子どもの育成について
(提言)

平成 25 年(2013 年)1月
第8期葛飾区社会教育委員の会議

発 行 葛飾区教育委員会事務局生涯学習課
〒124-8555 葛飾区立石 5-13-1 電話 03-5654-8479